



太田昭宏大臣（前列中央）と国土交通大臣表彰受賞者ほか

特集 離島振興 功労者 表彰

・功労者表彰式典

離島振興60周年記念功労者表彰式典——全離島事務局

・国土交通大臣表彰受賞者（一般住民）の功績

- 誰もが一度は訪れる「いやしの島」に——水上忠夫（宮城県大島） 26
- 農業・漁業・観光の連携を——菊池勝男（東京都八丈島） 27
- 日本復帰四五年の故郷に思う——佐々木幸美（東京都母島） 28
- 愛読者に支えられて六〇年——松本茂彦（東京都） 29
- 交流と文化の島・佐渡より——佐藤利夫（新潟県佐渡島） 30
- 島にしかない価値ある資源を活かす——中山勝比古（愛知県日間賀島） 31
- 人々の心のつながりを次世代に——山下伴郎（三重県答志島） 32
- 日本という離島を守ろう——永富洋一（三重県答志島） 33
- 住民一体となった離島振興の半世紀——中村三千雄（兵庫県淡路島） 34
- 六次産業化のチャレンジャーとして——吉崎博章（島根県隠岐島後） 35



白川博一会長（前列中央）と全国離島振興協議会会長特別表彰受賞者

- 島全体で盛り上げたい「走り神島」—— 井本瀧雄（岡山県真鍋島） 36
- いざ帰りなん、日本一豊かな島へ—— 横本正樹（広島県大崎上島） 37
- 本土から島への渡船通学を実現—— 佐子吾郎（山口県野島） 38
- 若い後継者が多く育つ島に—— 岡本新三郎（徳島県伊島） 39
- 住民が支え合う福祉の島を目指して—— 横瀬 實（香川県広島） 40
- 島の元気は文化の振興と交流から—— 松田武重（香川県直島） 41
- 再び子どもを産み育てられる島に—— 田中政利（愛媛県怒和島） 42
- 過疎地医療体制の充実を—— 木村隆徳（愛媛県戸島） 43
- 島の子、自信を胸に巣立て—— 梶原 實（福岡県大島） 44
- 皇室へも献上した伝統の赤米—— 主藤公敏（長崎県対馬島） 45
- ピンチをチャンスと捉える—— 山内賢明（長崎県志岐島） 46
- 地元根づく医師の開業を求む—— 田坂章吾（長崎県中通島） 47
- 比類なき伝統行事の継承に向けて—— ヘトマト保存会（長崎県福江島） 48
- 数百年来の製鉄技術を受け継ぐ—— 牧瀬義文（鹿児島県種子島） 49
- 若い頭脳と体力で離島の振興を—— 柏 修（鹿児島県種子島） 50
- 「世界の奄美」を目指して—— 有村栄男（鹿児島県奄美大島） 51
- 知恵と苦労を偲び、いまを知る—— 菊 千代（鹿児島県与論島） 52
- 夢に向かって積極的な挑戦を—— 村田兆治 53
- その他の表彰者・団体の功績 54

・受賞者一覧

功労者表彰受賞者名簿

・記念講演抄録

- 国家的視点から見た 離島の役割と離島振興への期待—— 武部 勤 58

離島振興60周年記念 功労者表彰式典

全離島事務局

主催者挨拶と御来賓祝辞

去る平成二五年一月一日（月）午後三時から東京都千代田区隼町のグランドアーク半蔵門「富士の間」において、「離島振興60周年記念功労者表彰式典」（主催：全国離島振興協議会）を開催した。

離島振興法施行および全国離島振興協議会設立六〇周年を記念した同式典は、半世紀以上にわたる離島振興の成果を生かしつつ、新たな時代の要請に対応した離島振興を展望し、あわせて、これまでの離島振興に多大な功績を残された関係の方々を顕彰するものである。

式典は、「功労者表彰式」「記念講演」「記念懇談会」の三部構成。会場は、全国各地の離島から参集された受賞者や関係者など、多くの列席者で埋め尽くされ、華やかなムードに包まれた。

開会に先立ち、先の台風二六号で甚大な被害に遭われた東京都伊豆大島の多数の犠牲者の方々に黙祷が捧げられた。

主催者挨拶では、白川博一全離島会長（長崎県壱岐市長）が、昭和二八年の離島振興法制定以来、政府および国会の支援による離島振興関係施策の着実な実施と、離島住民の方々の不断の努力に感謝の意を表し、多くの離島では過疎化に歯止めがかからず、高齢化もさらに進展、定住環境が悪化しつつある現況を説明。「わが国の領域・排他的経済水域の保全と活用など国家的・国民的貢献をなす骨格国土としての役割を担っている離島は、国家の命運を左右する重要存在であり、住民定住の重要性が極めて高くなっている」と訴え、「離島振興法が還暦を迎えた節目に、これからも離島が確固として存在し、国益に資することのできる地域で有り続けられるよう、これまで以上に活性化に向けた努力を重ねていきたい」と誓った。

来賓祝辞では、本式典にご後援をいただいた国土交通省、



白川博一全離島会長の挨拶。これまで以上に離島の活性化に向けて努力していきたいと誓った。



関係7省を代表して祝辞を述べる太田昭宏国土交通大臣。

総務省、農林水産省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、環境省の関係七省を代表して太田昭宏国土交通大臣が挨拶。離島地域における産業、教育・文化、医療・福祉、交通などの分野で多大な貢献をされた方々に深い敬意を表するとともに、「離島の国家的・国民的役割の重要性を鑑み、本年度から措置された離島活性化交付金の活用などを通じて、離島地域の振興をすすめたい。受賞者の方々がお手本を示された、離島振興の先駆け、また礎となる取り組みを土台として、地域住民の方々や市町村とも力を合わせ、さらなる振興施策に取り組んでいきたい」と述べた。



会場は、受賞者や関係者など多くの列席者で埋め尽くされた。

第一部 功労者表彰式

来賓紹介ののち、功労者表彰式に移った。今回から奄美群島と小笠原諸島も対象となった国土交通大臣表彰では、全国四三名の受賞者（一般住民等三二名、市町村長等一二名）のうち三〇名が列席。受賞者を代表して村田兆治氏（野球評論家・元プロ野球ロッテオリオンズ投手）が、太田国土交通大臣より表彰状と記念品目録を受け取った。村田氏は、プロ野球選手現役引退後、自身のライフワークとして全国の有人島をめぐる、日頃プロの技に触れる機会の少ない離島の子どもたちを対象に野球教室を開催、「国土交通大臣杯全国離島交流中学生野球大会」（通称・離島甲子園）を提唱するなど、スポーツを通じた人づくりと地域づくりに多大な貢献をなされた。

続く受賞者謝辞では、前新潟県佐渡市長で前全国離島振興協議会会長（現同会顧問）の高野宏一郎氏が受賞者を代表して登壇。佐渡市長として取り組まれた「朱鷺と暮らす郷づくり」認証制度、世界重要農業遺産システム（GIAHS）認定などを紹介した。また、全離島会長として臨んだ法改正への想い、それが結実したことへの喜びと感謝を述べ、「公務を退いておりますが、今後とも離島地域の発展のために微力を尽くす所存です」と結んだ。

50周年記念功労者



全国43名の国土交通大臣表彰受賞者を代表して太田国交大臣から表彰状を授与された村田兆治氏（左）。

その後、「全国離島振興協議会会長表彰」が行われ、会長特別表彰受賞者二七名（一般住民等一名、市町村長等二六名）を代表して浜口鶴蔵氏（新潟県佐渡市）に、会長一般表彰受賞者五六名（市町村長等四六名・本部及び支部職員等一〇名）を代表して鈴木重格氏（前宮崎県串間市長）に、それぞれ白川全離島会長より表彰状と記念品目録が贈られた。

NPO法人レインボー七つの島連絡会議理事長・久満泰彦氏（佐賀県玄海諸島）が会長表彰受賞者を代表して挨拶。住民相互の対話を重視し、島の産業の創生と雇用の創出となるような事業展開を目指して進めている「一島一木事業」や、子どもたちを対象とした自然科学教室などの活動が顕

表彰されたことに感謝し、他の受賞者とともに今後とも離島地域の発展に尽力したいとの謝辞を述べ、表彰式は盛会のうち幕を閉じた。

第二部 記念講演

同日の午後五時から、会場を同館内別フロア「華の間」に移し、一般財団法人東亜総研代表理事・会長の武部勤氏（元自民党離島振興特別委員長）による記念講演を実施した。

新市長に
前市長に
一郎市長
高野宏一
由る受賞者謝辞

講演のテーマは「国家的視点から見た離島の役割と離島振興への期待」。大臣表彰受賞者をはじめ関係者が会場を埋めつくし、氏の離島に対する想いや法改正におけるエピソード、今後の離島振興ビジョンなどのお話に熱心に耳をかたむけた（記念講演の概要は五八頁参照）。



多数の衆参国會議員や各省庁関係者などが詰めかけ賑わいを見せた懇談会。

第三部 記念懇談会

午後六時半から同館内「富士の間」にて、懇談会を開催した。受賞者はもちろん、衆参国會議員並びに各省庁関係者、関係団体の方々などが詰めかけ、大変な賑わいを見せた。